

# 新報

島根県教育庁  
隠岐教育事務所  
隠岐の島町港町塩口24  
電話2-9772

## 生徒指導部会に 参加して

隠岐郡小中学校教育研究会の生徒指導部会の研修会が行われ、島前・島後どちらの会場にも参加しました。研修は、今年度の自校の取組を「未然防止」「早期発見」「対応」「事後」「対象者」で表に分類し、グループで共有することを中心に行いました。先生方はお互いの取組を共有することはもちろんですが、一年間生徒指導主任・主事として抱えていた悩みや迷いについても語り合いました。また、各学校それぞれに特色ある取組があり、お互い来年度に向け参考にしておられました。日々取り組んでこられた生徒指導の取組を分類することや他校の先生方と語り合うことで、自校の強みや課題について整理

することができたようです。参加された先生方の振り返りの一部を紹介します。「本校は未然防止に重点をおいて取り組んでいるとプラスで捉えることができた」「主事の役割を振り返って考える機会になった」「他校の先生方との情報共有で様々な取組を知ることができ貴重な時間だった」「情報を共有することで自校の強みと課題を確認することができた」「主任の立場を自覚し、他の職員に働きかけることを今後の課題とした」

とを今回の生徒指導部会の様子からも、うかがい知ることができました。子供たちはもちろんですが、先生方自身も不安な学校生活を送っておられる中、立ち止まらず歩み続ける姿は、「こんな大人になりたい」と尊敬される、生徒指導における教職員の大事な役割であったに違いありません。  
(文責 藤野)

## 障がいのある子供の自立と社会参加へ向けて

今年度も特別支援教育に係る隠岐管内全小中学校の学校訪問をいたしました。各学校では、障がいや困り感のある児童生徒の指導・支援のあり方、教育課程の編成や自立活動の指導等について特別支援教育コーディネーターを中心に組織的な取組がなされ、学校全体として特別支援教育を経営基盤において実践がなされていることを強く感じました。

また個別の教育支援計画、個別の指導計画を軸にした校内委員会が開催されている学校も多く、指導・支援のあり方、関係機関との連携等について情報の共有が図られていました。

一方で、先生方からあがった意見の中に「自立活動ってわかりにくいです」「どのように指導すればいいですか」というものがありました。こうした意見に対して、自立活動そのものの理解、指導方法、ねらいの立て方など周知を図る必要があると思いました。来年度もこのような貴重な意見を基に、自立活動に視点をあてた学校支援を継続していくと考えています。

## 隠岐地区社会教育事業 実践発表会開催

二月十日、海士町の隠岐開発総合センターにおいて、隠岐地区社会教育事業実践発表会が開催されました。この実践発表会は、今年度十月に隠岐管内町村教育委員会が合同で実施した「事業パワーアップ研修」社会教育施設等職員の事業作り研修」を受講された方の中から実践発表者を募り実施されました。

この一説を読んで、自立活動こそ指導を通して、子供自身が自分の良さに気づき、生かし、苦手を克服しながら、自己実現へ向けて社会参加しようとする主体的な生き方を支えていく領域ではないかと改めて気づかされました。  
(文責 奥谷)

どの発表にも共通して言えることとして、以下の点があげられます。今まででありがちな行政サービスの提供という事業から、住民自らが担い手となり参画・協働する事業になるよう仕掛けています。大人だけでなく子供も参画するなど、多世代が関わり合える事業にしている点です。

この二つの視点を取り入れて事業を展開することで、大人が協力し楽しむ姿を子供たちが目にする機会となり、人と関わることの心地良さやその地域の良さを感じることができそうです。そして、このような取組が今求められている地域を担う人づくりの基礎となります。今後このような取組が増えるよう、人づくりの拠点となる社会教育施設等への支援の充実を図っていきま

し会「どつきり祭」  
○西ノ島町コミュニティ図書館「いかあ屋フェス」みんな一緒に」

(文責 吉山)